

COVID-19 は、令和 5 年 5 月 8 日に 5 類感染症へ移行し「法律の下での対応」が大きく変化しました。人々との安堵感と一抹の不安感が交錯する中、運動会などでの子どもたちの歓声や応援する保護者たちの和やかな表情を見ると、私たちもほっとした気持ちになるところです。一方、定点から把握される感染者数は微増傾向が続いており、また COVID-19 が少数発生になった分（？）、学校などでのインフルエンザの集団発生、新幹線内で感染したと思われる麻疹患者の連続的発生、RS ウイルス感染症・ヘルパンギーナ・A 群溶連菌感染症の増加などがみられており、感染症への油断は禁物！といった状況です。

さて、本号の特集は「難しい話題の伝え方—小児科医に必要なコミュニケーション・スキル」として、遺伝性疾患・胎児診断・新生児仮死・てんかん・悪性腫瘍・救急外来・PICU・脳死/臓器移植・リエゾン精神科医の立場などにおけるコミュニケーションの重要性、小児科医として身に付けておくべきことなどについて述べていただいています。Communicate は「(情報を) 伝達する」という意味があり、語源はラテン語で「分かち合う」を意味する「communis」です。医師、とくに小児科医は大人とは異なる患者である小児、物言わぬ患者である新生児・乳児、そして保護者との会話がきちんとできることが求められますが、必要なのは Web 画面や AI、

ChatGPT などに頼るのではなく、心の通った会話であることは言うまでもありません。とくに新生児仮死について執筆された加部一彦先生の「悪いニュースをどう伝えるか」、お子さんを急性脳症で亡くされた立場から執筆してくださった坂下裕子氏の「深刻な場面における保護者との対話」は“全小児科医にとって必読”と感じているところです。

また本号から川口敦先生による「研究マインドが身につく『実例でわかる 臨床研究入門』」の連載がスタートしました。第 1 回は「面白い・ワクワクする研究」がテーマで、ロートルである筆者もワクワクして拝読し、第 2 回が待ち遠しい思いになっています。

目で見える小児科「嚥食性感染」、症例「小児四肢疼痛」、トピックス「ロタウイルス胃腸炎入院例の解析」はいずれも日常診療に密接したもので、レアケースとして「DYT11 ジストニア」について寄稿いただいています。日本医大小児科からの英文文献紹介では「ピーナツアレルギーの経口療法」「先天性免疫異常者へのワクチン（日本での全国調査）」「MIS-C と川崎病の鑑別」など、いずれも小児科医にとって、臨床・研究に重要なものばかりですので、ぜひご一読ください。

(岡部 信彦)

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC 順）

小児科

第 64 巻 第 6 号 6 月号

2023 年 6 月 1 日発行（毎月 1 回 1 日発行）

定価 3,190 円（本体 2,900 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 48,950 円（本体 44,500 円＋税 10%）

〔年間 13 冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料で〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03-3811-7165〔雑誌部直通〕

Tel 03-3811-7184〔営業部直通〕

Fax 03-3813-0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03-3637-0005

広告申込先 株式会社文京メディカル Tel 03-3817-8036

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。